

愛知県立大学〔各学部学科・研究科〕における教員養成の理念

■愛知県立大学

愛知県立大学は、知の探求に果敢に挑戦する教育研究者と知の獲得に情熱を燃やす学生が、相互に啓発し学び合う「知の拠点」を目指している。良質の研究とこれに裏付けられた良質の教育を進めるとともに、その結果をもって地域社会・国際社会に貢献する。さらに、自然と人間の共生、科学技術と人間の共生、人間社会における多様な人々や文化の共生を含む「成熟した共生社会」の実現を見すえ、これに資する研究と教育、地域連携を進めている。「成熟した共生社会」の実現に資する教育研究という理念を踏まえ、「共生」に関わる3つのコンセプトに基づいた教育・研究の目的及びミッションとして、外国語学部及び日本文化学部では「グローバルな他文化共生を目指す」、教育福祉学部では「社会における人間の共生を支える」、情報科学部では「科学技術と人間の共生を図る」という教育・研究が進められている。

このような大学の基本的理念、目的及びミッションのもとに、広く社会に貢献し、共生社会を形成していく質の高い教員を養成することを目指している。すなわち、本学における教員養成は、共生社会を形成していく人材として、子どもたちの確かな基礎学力の保証と人格形成及び心身の発達に関わる専門的職業としての教員の養成を行っていく。さらに、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、社会性の形成など学校教育における重要な課題に応えられる教員養成、LD、ADHD、ASD等の子どもへの適切な支援の課題にも対応できる教員養成を行っている。

学部〔学士課程〕

■外国語学部

《英米学科》

英米学科は、国際語としての英語に関する高い運用能力を持ち、高度な専門的知識を身につけ英語教育に精通するとともに、英語圏の言語・文学・文化・歴史・政治・経済・思想に関する幅広い知識を習得した有為の人材を英語教育界に送り出すことを目標としている。本学科では、学生が「役に立つ英語」かつ「高度な英語」を身につけられるよう、Communicative English, Research & Discussion, Academic Writing など、英語のみを使って調査、発表を行う能力を錬成する授業を豊富に配置するとともに、英語学、英語教育学、英米文学、英米を中心とする英語圏の地域研究などについての幅広い知識を習得するための授業を用意している。その上で、学生は3年次からコース制のカリキュラムを選択して、自らの関心にあった研究分野を深く学ぶ。カリキュラムは系統性、体系性を重視して有機的に編成されており、自身が英語学習者としての自律性を備え、それを将来の教育活動に活かせる教員を養成できる。

英米学科は、このようなカリキュラムにより、高度な英語運用能力を持ち、それを授業実践に活かすことができるだけでなく、英語の構造、英語圏の文化、歴史、社会の仕組みなどへの豊かな知識を備え、学習者（生徒）の興味と関心を引き立てることができる教員を育成することを目指す。

ヨーロッパ学科

《フランス語圏専攻》

フランス語圏専攻は、フランス語を使用する国・地域の社会と文化への広い知見を身につけ、とりわけフランスの言語、文学、歴史、社会に関する専門的な知識の習得を通して、国際的に活躍し得る人材の育成をめざす。教育・研究の対象は主に西ヨーロッパであるが、近年は対象地域をアフリカにも広げている。

このような教育・研究の基礎であるフランス語は、世界の50以上の国・地域で使用されている言語で、フランス、ベルギー、スイスなどヨーロッパの国々の他、かつてフランスやベルギーの植民地だった北・西アフリカなどを中心に29カ国で公用語となっている。全世界で約1億2千万人が主要言語として使用し、総話者数は2億人を超える。また国連、EU、オリンピック、国際サッカー連盟などでも公用語の1つとして使われており、世界で最も重要な言語の1つである。また日本にとっても、近年めざましい日系企業のアフリカ進出に伴い、フランス語の重要度は高まってくるであろう。

本専攻では、そのフランス語を初歩から学び、卒業までに高度なフランス語コミュニケーション能力を身につけるだけでなく、フランス語圏の社会や文化に通じ、異文化理解能力を高めることが可能である。現にフランス語運用能力とフランス語圏に関する知識をいかして、在学中から異文化交流に努める学生が多く、国内外で活躍している卒業生も少なくない。

本専攻は、今後も、高度なフランス語運用能力とフランス語圏に関する多様な総合的知識を有する人材の育成をめざし、国際社会・地域社会における「多文化共生」の実現に寄与する教員養成に取り組んでいく。

《スペイン語圏専攻》

本専攻ではこれまで、外国やその文化に理解を示し、ことばや習慣の違いを乗り越えて人的交流を積極的に支援する人材を育成してきた。教育現場も含め、国内外で活躍している卒業生を数多く輩出している。今後もこのような人材が教職に就き、学校教育の場において次世代育成に加わるのが、わが国や地域の発展に大いに貢献することと確信している。

また、近年では、愛知県をはじめ、東海地方におけるスペイン語圏出身住民の増加に伴い、学校教育の現場においてもスペイン語および中南米の文化社会についての知識を備え、高い異文化理解能力を持った教員を求める声が上がっている。この期待に応えるべく、本専攻ではスペイン語の教員養成のための指導体制を備えている。日本国内の大学のなかで、スペイン語の教員免許状を取得できる場所は数が限られている。スペイン語教育の場としての本専攻の希少性も十分に踏まえた上で、今後ますます教育体制を充実させる所存である。

《ドイツ語圏専攻》

ドイツは技術立国と環境問題先進国の2つの顔を持つヨーロッパ最大の経済大国であり、わが国にとっても参照すべき点は少なくない。また、EUならびに国際社会におけるドイツ語の重要度は、今日においてもますます高まっている。

本専攻は、高度なドイツ語運用能力と、ドイツ語圏に関する多様な総合的知識を有する人材の育成を大きな目標にし、国際社会ならびに地域社会における「多文化共生」の実現に寄与する人材を輩出すべく取り組んでいく。

《中国学科》

中国学科は、中国大陸のみならず、アジアにおいて漢民族が居住し中国語が話される地域、即ち「中国語圏」を教育・研究の主な対象としている。

また、高度な中国語運用能力と、中国語圏に対する多角的で構造的な分析能力を養うことにより、今後日本との結びつきがますます密接になるこの地域に向き合い、優れた異文化理解能力と国際的視野に立った判断力を発揮できる人材を養成することを理念としている。中国語の教員養成はその理念を体現するものの一つである。

そして、多言語社会に対応するべく、学習者への中国語教育は勿論のこと、多言語がとりまくこの地域への貢献ができる教員養成にも努める。

■日本文化学部

《国語国文学科》

国語国文学科の前身である国文学科では、開設以来、中学・高校の国語教師を多く輩出してきた伝統があり、有能な教育者の養成は学科の大きな目標のひとつである。これは日本語という言語及び日本文学を古代から現代にいたるまで広く学び、かつ漢文学の素養を深めることによって達成される。このような日本文化への理解を軸にしつつ、さらに歴史文化学科とのカリキュラムを共有することで、より広い視野に基づく柔軟な思考力を身につけて、異文化への関心を育み、多文化共生社会を生きる人材の養成を目指している。

《歴史文化学科》

歴史文化学科は、グローバル化がますます進行する世界の中で、日本の歴史文化を深く理解すると同時に、異文化へも関心を広げつつ、今後の共生社会を生き抜いていける人材の育成を目的としている。特に、流動化し多文化が混在する社会の中で、地域に根ざした地に足の着いた日本研究に裏打ちされながら、一方でそれを国際的な視点で発信し、教育していける力を持つ、そうした教員

の育成を目指している。このような観点から、カリキュラムは「歴史文化」（日本歴史）と「社会文化」（現代社会）の二つの分野を中核にした、幅広い領域から構成されている。

また、国語国文学科とのカリキュラムの共有によって、より広い人文学を身につけた人材の育成が可能となってきている。さらに、学部全体として、閉じた日本研究ではなく、むしろ世界から日本がどう見えるのか等、ナショナルなものに閉塞しない柔らかな思考力を身につけることも重視しており、そのために国際交流を積極的に行っている。こうしたことを通じて、人文・社会科学の諸方面から、日本の歴史と文化を領域横断的に探究し、グローバルな視点からの発信力を備え、かつグローバルな多文化共生を目指す人材として、社会科（中学校）および地理歴史科（高等学校）の教員の養成を目指している。

■教育福祉学部

《教育発達学科》

教育発達学科は、子どもたちの健やかな発達を阻む様々な問題を科学的にとらえ、その解決の方法を探究する学問の構築と発展を目指している。現代社会で進行している子どもの貧困、自殺、いじめ、非行、不登校、コミュニケーション不全、低学力、子どもらしい感受性の鈍麻や無気力化といった“子どもの発達の危機に対処する科学”を、教育学、心理学、教科教育学、保育学などの教育諸科学とともに、教育と密接にかかわる福祉の視点からも探求することを特色とした学科である。

本学科での幼稚園教員及び小学校教員の養成に対する理念は、豊かな人間性や社会性の基盤の上に、家庭や地域、他の諸機関と連携し、子どものおかれている状況や発達を科学的にとらえ、教育現場での確に判断し指導できる実践的力量を身に付けた教員を養成していくことである。とくに幼稚園と小学校との連携・接続を重視し、発達障害児や外国籍児童など、配慮を必要とする子どもたちを十分理解し支援する力を養い、たんに知識や個別の指導・援助技術を習得するだけでなく、広い視野から創造的判断や問題解決ができる実践的力量を培うことをめざしている。

《社会福祉学科》

教員は知識の伝達能力のみならず、人間としての高い資質が求められている。専門的な職業としての教職に従事する人材を育成するということは、養成の認定を受けるに際して常に自覚していなければならない。理念的には、教師としての資質と専門職者としての自覚を持った教員を養成することが、教職課程を置く学科に求められていることはいままでもない。こうした教員養成に対する社会的責任は自覚したうえで、社会福祉学科として教員養成に対していかなる理念を有しているかを以下に述べる。

「公民」という科目は、日本社会において主体的な判断を行い、同時に責任の主体であるための資質を育成するためのものである。つまり、「主権者」としての資質に関わる科目だといえる。この点、現代の日本社会は、少子高齢社会という人類未経験の事態を迎えており、日本の将来がどのように変化していくかにおいて、少子高齢社会に対する理解とそこでの諸問題の解決能力という分野

は重要なキーとなる領域だといえる。本学科では、少子高齢社会という特質の下における福祉とその保障のあり方についての構想力と実践力を育成しているが、こうした構想力と実践力は、現代的問題への対処能力を育成することが求められている教員の養成においても、専門家としての資質として今日求められているものであると考えられる。

そこで、本学科は、こうした構想力と、とりわけ実践力を育成することのできる「少子高齢社会を豊かに支えることのできる教員」の養成を基本的な理念として掲げ、学科の教育体制が少子高齢社会のみならず、網羅的な福祉諸問題に対する諸科学の教授であることを活かし、幅広い福祉関連科目を「教科に関する科目」として提供することにより、未来社会に向けての問題解決能力の高い教員の育成を構想している。

■情報科学部

《情報科学科》

情報科学科では、4コース制を取り、情報科学の基礎から応用まで幅広い知識を教授している。

情報システムコースでは、情報システムや情報ネットワークの構築技術、メディア・ロボティクスコースでは、情報メディアの生成・処理・蓄積・利用技術からロボティクス、またシミュレーション科学コースでは、システムの分析・設計に不可欠なシミュレーション技術、知能メディアコースでは、情報メディアの生成・処理・蓄積・利用技術、またロボティクスコースではロボットの運動制御や知的情報処理技術などの情報技術の修得を図ることによって、高度な情報技術と総合的思考力を備えた情報技術者を養成することを教育目標としている。

また、本学科では、情報科学の基礎、とりわけ数理的な側面を重視しており、カリキュラムには数多くの数学科目が配置されている。これにより情報科及び数学科の教員にふさわしい専門知識・技能を育成することを目指すとともに、これらの知識・技能の上に、教科（学習）指導、学級指導、生徒指導などの教員に必要とされる能力を育成し、指導力と人間性豊かな教員を養成することを教員養成の理念とする。

大学院

■国際文化研究科

《国際文化専攻》

国際文化研究科国際文化専攻の目標は、日本文化に精通しつつ、国際社会にかかわる高度な専門的知識を持ち、多文化の共生関係を深く理解して、国際社会及び地域社会の様々な分野において積極的に活躍できる国際感覚に優れた人材を育成することである。本研究科における専門研究を通して、学生が自ら積極的に学ぼうとする態度や深い洞察力を習得することを目指している。さらに本学科では、現役教員のリカレント教育や専修免許（英語）取得のサポートも視野に入れ、実践的英語力をさらに高いレベルへ引き上げるための授業を配置するとともに、英語という言語、英語圏の

文学、歴史、社会や文化などを幅広い視野から包括的に学び、英語教育学に関する深い知識を身に付けた中学校及び高等学校の英語科教員を養成することを目標としている。

《日本文化専攻》

国際化が進む現代社会において、もっとも必要とされるのは、言語や文学、歴史や社会を中心とした文化に対する深い理解と、それらに対する洞察力、思考力である。

本専攻においては、「言語文化」と「社会文化」という二つの専門領域を設定する。

「言語文化」の専門領域では、日本の言葉と文学について、古代から現代にいたるまで広く、なおかつ深く高度な研究をすることを軸として、さらに異文化への理解を深めることにより、これを次代に引き継ぐことのできる中学校および高等学校国語科教員を養成することを目標としている。

「社会文化」の専門領域では、古代・中世・近世・近現代を通時的に学び、かつ地域文化研究・政治社会研究・社会思想研究を学ぶことによって、歴史や地域・社会に関する豊かな知識を有し、かつグローバルな視野をもって、自ら資料を収集・分析し、考察することができる中学校社会科教員と高等学校地理歴史科教員を養成することを目標としている。

■人間発達学研究科

人間発達学研究科は、学部組織の教育福祉学部を基盤としており、博士後期課程も擁して教育福祉系の研究拠点をめざす全国でも数少ないユニークな大学院である。本研究科は、現代社会における人々の生活の全局面に現れている“人間の発達と尊厳の危機”に対して、理論的、実証的および実践的・臨床的な研究・教育を展開している。

本研究科では、幼稚園、小学校および高等学校公民の専修免許状が取得できる。教員養成の理念は、前述の研究・教育の展開により現在の学校教育現場において求められる高度な専門性の育成をめざすことにある。現在の学校を取り巻く複雑な問題の解明と解決には、学校教育の枠に留まらず、より広い社会的な視点からの学際的アプローチが必要であり、本研究科の特色である教育系と社会福祉系の学問分野の連携により、それぞれの免許状に即した高度な知識と技能を身につけることができる。

■情報科学研究科

《情報科学研究科・情報システム専攻》

情報科学研究科情報システム専攻（博士前期課程）では、情報の数理、コンピュータシステム、コンピュータソフトウェア、情報ネットワーク、ユビキタスコンピューティング等、この分野の先端的専門知識と技術に習熟し、実社会における実用的な情報システムの構築、新しい情報通信技術の開発ができ、実際的な問題解決能力を備えた高度情報技術者を育成することを目的としている。この目的のもと、高い専門性を有し、かつ情報科学に関する高度中核技術を修得することにより、

急速に進展する情報科学の応用力および運用力を有し、それらを教育に活かせる教員を養成することを理念とする。

《情報科学研究科・メディア情報専攻》

情報科学研究科メディア情報専攻（博士前期課程）では、メディアコンテンツ、知能情報処理、言語情報処理、音声・視覚情報処理等に関する知識と、情報メディアの生成、処理、蓄積、利用等、この分野の先端的専門知識と技術に習熟し、実際的な問題解決能力を備え、知識情報社会に貢献できる高度情報技術者を育成することを目的としている。この目的のもと、高い専門性を有し、かつ情報科学に関する高度中核技術を修得することにより、急速に進展する情報科学の応用力および運用力を有し、それらを教育に活かせる教員を養成することを理念とする。

《情報科学研究科・システム科学専攻》

情報科学研究科システム科学専攻（博士前期課程）では、システムの数理の深い理解のもとに、地球環境システム、社会・産業システム、生体情報システム等の大規模かつ複雑なシステムの数理モデル化と計算機シミュレーションによる解析と制御する技術の分野の高度な問題解決能力を有し、複雑な実システムに関する新しい理論と方法論を開発できる高度情報技術者を育成することを目的としている。この目的のもと、高い専門性を有し、かつ情報科学に関する高度中核技術を修得することにより、急速に進展する情報科学の応用力および運用力を有し、それらを教育に活かせる教員を養成することを理念とする。